「日々の理科」（第 3974 号） 2025,-6,24

「高知紀行（１）」

お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーション研究所

田中　千尋　Chihiro Tanaka

四国高知に出張に行ってきました。主として高知県宿毛市（すくもし）での教員向け研修、中学生への授業、それに宿毛市の離島「沖の島」の小中学校での授業が内容です。高知県へは何度か行ったことがありますが、それも１０年ぶり以上で、更に宿毛市も沖の島も初めて訪ねる土地なので、楽しみにしていました。

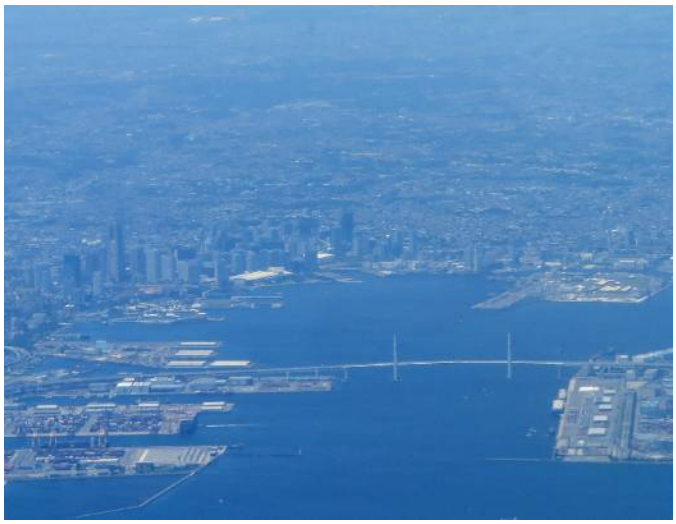
高知へはもちろん飛行機に乗りました。日曜の昼の便でしたが以外にも混雑していて、ほとんど空席はありませんでした。高知便は本数が少ないこと、機体もワイドボディ機（通路が２本ある機種）ではないことが原因でしょう。

予約した時点でほぼ満席で、通路に面した席も、窓側の席もとれませんでした。しかし出発直前にキャンセルが出て、機体後方の右窓側に変更できました。「右窓側」という点が重要なのです。

羽田空港の滑走路は、２本並行のものがあります。この表示は「34 番 L（左）滑走路」と「16 番 R（右）滑走路」を表す表示です。この二つの滑走路は同一で、飛行機が滑走・飛行する向きがちがうだけです。この滑走路と並行して「34R＝16L」の滑走路があります。

離陸してすぐに、京浜工業地帯が見えます。真ん中の水路は「京浜運河」です。

この日関東地方は比較的天気が良く、遠くの雲海上に富士山も見えていました。



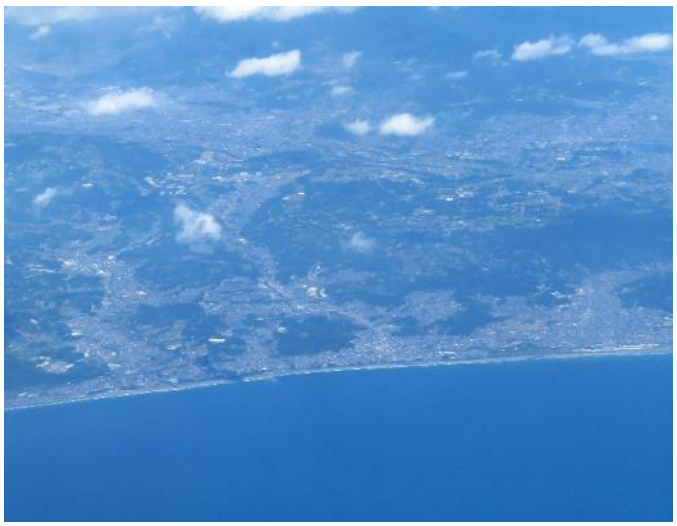
離陸から 10 分も経たないうちに、横浜の南上空を飛行します。横浜港、みなとみらい地区、横浜ベイブリッジなどが鮮明に見えました。

続いて三浦半島を横切ります。右が東京湾側、左が相模湾側になります。

逗子の入江もよく見えました。砂浜の南端には、私が時々寄る海辺のカフェの屋根も見えました。飛行機の機窓から知っている建物を特定するのは、とても楽しいことです。

江の島も手に取るようによく見えました。江の島は巡検で何度も歩いているので、岩の位置や断層の場所まで頭に入っていて、面白いです。

江の島の北側に河口をもつ「境川」を遡って、最初に左蛇行するところに、特徴的な赤い屋根の建物が見えます。私がよく授業で訪問している「湘南白百合学園小学校」の校舎と体育館です。



機は相模湾の海岸線を西進し、やがて大磯丘陵が見えてきます。先日、岩石や蝶の観察で何度も行った場所です。飛行機だと東京からたった 15 分で着きます。